

① 見出しの口に言葉を入れましょう。

② 東京モーターショーで、最新モデルの発表以外に「未来のクルマ」を提案している理由は何でしょうか。

③ 各メーカーが提案している「未来のクルマ」とは、具体的にどのようなものか、2つ書きましょう。

## 取材ノートから 記者余論

乗客の動作をカメラで検知するシステムをPRした矢崎総業のブース。23日、東京・有明の東京ビッグサイト



東京モーターショー

# 需要の [ ] に対応を

11月4日まで東京・有明の東京ビッグサイトなどで開催中の東京モーターショー。各メーカーが最新モデルだけでなく、自動運転や人工知能搭載のコンセプトモデルなど「未来のクルマ」を展覧した。国内市場が伸び悩む中、自動車を共同利用するカーシェアリングといった「所有から利用へ」の動きが加速するなど、新たな需要への対応も求められている。

クルマ離れや高齢者の免許返納で、国内はドライバーの減少が避けられない。高性能で魅力的な商品を作つて販売するだけでなく、過疎化や外国人観光客の増加など、さまざまな交通課題を解決するサービスを打ち出さなければ、業界の地盤沈下につながりかねない。

ススキの鈴木俊宏社長もショーで「これまでになかったサービス、新しい価値が生まれている」との認識を示した。

公共交通機関のすき間を埋める移動手段もその一つ。会場には、ヤマハ発動機が開発した小型電動立ち乗り三輪車「トリタウン」や、浜松市内で実証実験が行われている電動キックボードなどの試乗体験コーナーが設けられた。

矢崎総業は完全自動運転の乗り合いバスなどを想定し、車内カメラで乗客の居眠りや忘れ物を検知する「見守りシステム」をPRする。無人運転だからこそ生じる乗客の不安。完成車メーカーに限らず、こうした新たな技術に伴う課題の解消にいち早く取り組む姿勢が必要だ。多様化するニーズを捉え、今後も新たな価値を提供し続けてほしい。

(東京支社・八木敬介)

2019年10月28日朝刊

年 組 名前